

最新ニュース 羽曳野市や藤井寺市・藤井寺市医師会と連携協定を締結しました

令和6年1月29日に、当センターは羽曳野市と包括連携協定を締結しました。羽曳野市とはこれまで、検診事業や小児救急医療などさまざまな分野で連携しておりましたが、人口減少、少子高齢化、防災や環境などの地域課題や社会課題に関しては、ますます多様化・複雑化が進んでおり、その解決には、行政だけでなく地域の関係者が協力しながら進めていくことが必要と考えます。

今回の包括連携協定を契機として、これまで当センターが重点的に取り組んできた健康・医療の分野に加え、子育てや防災対策などの分野においても、市民の皆さまが健康を維持し、安心して社会生活を送ることができるよう、羽曳野市と連携・協力を行ってまいります。



令和6年2月7日に、藤井寺市・藤井寺市医師会と当センターの三者で地域医療などに関する連携基本協定を締結しました。

今回の協定は、令和6年3月の市立藤井寺市民病院の閉院に伴い、市民の皆さまに切れ目のない医療を提供することを目指し、締結したものです。今後は藤井寺市や藤井寺市医師会と共に、地域全体の医療を支えるべく、誠心誠意努めてまいります。

最新ニュース スギ花粉が飛び始めるシーズンとなりました

今年の花粉の飛散量は、多くの地域で例年並みかやや多いと予測されています。スギ花粉は2月上旬に九州から関東の一部で本格的に飛散を開始しますが、飛散開始前からわずかな量が飛ぶことがあり、早く症状が出始めることがあります。

スギ花粉のピークは2月下旬から3月下旬、ヒノキ花粉は3月中旬から4月中旬ですが、早めの対策で症状が抑えられます。外出するときは花粉を浴びないように、メガネ、マスクを着用しましょう。症状が強い方は早めにお薬を飲むことをおすすめします。

花粉症を重症化させないように、重症患者ゼロをめざす取り組みが日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会で始まりました。役立つ情報が掲載されていますので、ぜひご覧ください。



花粉症重症化ゼロ作戦
ホームページ



イベント報告

川島 佳代子 医務局長が日本・台湾 耳鼻咽喉科頭頸部外科学会議で舌下免疫療法について発表しました

令和5年12月16日と17日に台湾台中市で行われた16th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgeryにおいて、当センターの川島 佳代子 医務局長がinvited speakerとして舌下免疫療法について発表いたしました。台湾、日本双方の耳鼻咽喉医療について活発なディスカッションが行われ、交流を深める機会となりました



耳鼻咽喉科セミナーを開催しました



令和5年12月2日に、第6回はびきの耳鼻咽喉科セミナーを開催しました。このセミナーは、近隣の医療機関の先生方と病診連携を深めるために毎年開催している勉強会です。

今回の特別講演では、呼吸器内科の森下 裕 主任部長が睡眠時無呼吸症候群に関する講演を行いました。これからも近隣の先生方との意見交換の場として開催してまいります。

院内転倒に関する勉強会を開催しました

令和6年2月5日、当センター職員を対象に「院内転倒に関する勉強会」を開催しました。整形外科の谷内 孝次 副部長から、院内転倒に関するさまざまな話題やデータの紹介があり、医師・看護師・理学療法士などが聴講しました。

当センターの入院患者の転倒率は、全国主要病院の平均値と比べて低い水準に抑えられていますが、さらに患者さんの安全性を向上させるため、日々研鑽を積んでいます。



知っく情報

検診結果を活かしていますか？

多くの疾患は初期に症状がないものです。高血圧、脂質異常症（高コレステロール血症）、高血糖（糖尿病）なども症状がないことが多く、そのため、検診を受けてこれらの異常を指摘されても、そのまま放置してしまう方がおられます。

しかし、心筋梗塞、心不全など生命に関わる疾患は、これらの異常をお持ちの方に多く発症します。将来の循環器疾患予防のため、病気になってから治療するのではなく、たとえ症状がなくても検診で異常を指摘されましたら、お気軽に受診してください。



ホームページ



知っく情報 非常時の口腔ケアはとても重要です

お口の中には虫歯菌や歯周病菌など非常にたくさんの細菌が生息し、口腔内細菌とうまく共存しています。口腔ケアは、お口の中を清潔で潤ったきれいな状態に保つため、歯みがきだけではなく、うがいや入れ歯の洗浄、お口の保湿を行います。口腔ケアによりお口の細菌が減り、虫歯や歯周病だけでなく、体内に細菌が侵入して起こるさまざまな病気を予防することができます。

災害のような非常時には、避難所で水が使いにくく歯みがきができない状況になると、お口の細菌は増加します。また食事や睡眠が十分にとれない生活では、免疫力が低下します。このような環境では、お口の細菌が肺に入って起こる誤嚥性肺炎が増加することがわかっています。

また、手術は人生の非常時です。手術後は、歯みがきがいつも通りできずにお口の細菌が増加するのに加え、手術侵襲で免疫力が低下しており、災害時と同様に誤嚥性肺炎など、お口の細菌が原因で全身のトラブルが起こりやすくなります。

当センターでは、手術前後の口腔ケアを推奨しています。手術前に歯科口腔外科で口腔ケアを実施し、細菌の少ないきれいなお口で手術に臨んでいただくようにしています。手術という人生の非常時を無事に乗り切るため、口腔ケアで患者さんをサポートしています。



はびきのトピックス 胸部レントゲン撮影の必要性をご理解ください

当センターの呼吸器科などの外来では、受診時に胸部レントゲン撮影を行うことを基本としています。その際、「近くのクリニックで撮ったのにまた撮るの？ CTを撮るのにレントゲン撮影も必要なの？」と、さまざまな質問をいただきます。

肺疾患では、過去のレントゲン画像と比較することが診療にとっても役立ちます。これにより、新しく出てきた肺炎や肺癌の疑いを指摘しやすくなります。

また、撮影する医療機関によって見え方が少し異なるので、改めて当センターで撮影をお願いしています。CTを撮影する日にレントゲン撮影も行い、画像を保存しておくことで、将来の役に立つことが多々あります。ご不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。



「^{けっしょう}血漿交換療法」をご存じですか？

当センターでは、高度な治療にも積極的に取り組んでいます。その一つとして、「^{けっしょう}血漿交換療法」があります。これは体外に血液を取り出し、その血液から病因物質を除去したうえで、血液を体内に戻す治療法です。

皮膚科の領域では天疱瘡・類天疱瘡といった自己免疫性水疱症をはじめ、重症薬疹、その他一部の^{けっしょう}膠原病にも適応があります。治療は入院にて行います。「^{けっしょう}血漿交換療法」を併用することで、より安全かつ速やかに症状改善が見られるケースがあります。

当センターでは、令和5年4月より腎臓内科常勤医師が2名赴任し、より専門的な治療を行えるようになりました。皮膚科では令和5年度に「^{けっしょう}血漿交換療法」による治療例が複数あり、重症患者の^{けっしょう}血漿交換を実施し、症状の速やかな改善効果が得られています。



はびきのトピックス 薬局に散薬調剤ロボットを導入しました

従来、散薬調剤は、薬剤の取り出し⇒秤量⇒分包を手動で行っており、患者さんの待ち時間が長くなってしまふことが多々ありました。今回、新病院開院に伴い散薬調剤ロボットを導入し、処方頻度の高い散薬調剤を全自動化することにより、調剤時間の短縮と秤量の正確性の向上が期待でき、患者さんにより安心、安全にお薬を服用していただくことが可能となりました。



イベント情報

「健康寿命を延ばすために」はびきの健康フォーラム動画配信を開始



「健康寿命を延ばすために」をテーマに、令和5年度はびきの健康フォーラム（動画）がWebで配信されています。当センターからは、「2型糖尿病の病態と最新の治療について」と題し、糖尿病・内分泌内科 樫根 晋主任部長が講演しています。

羽曳野市公式YouTubeチャンネルにて、令和6年3月31日まで配信しておりますので、ぜひご覧ください。
(視聴は無料です)



視聴はこちら

「アレルギーはどこまで治るか？」府民公開講座を開催

当センターでは、この度、アレルギー府民公開講座「アレルギーはどこまで治るか？」（ハイブリッド型講演会）を開催します。この講演会では、府民の皆さまにアレルギー疾患について正しく理解していただくために、専門医が最新の治療法や正しい対処法などについてわかりやすく解説いたします。ご家族がアレルギー疾患をお持ちの方、保育園や学校関係者の方など幅広く、府民の皆さまのご参加をお待ちしております。

日時 令和6年3月24日（日）13:00～16:00
会場 現地：大阪はびきの医療センター 3階 講堂
 オンライン：ZOOMウェビナー（ハイブリッド型講演会）
定員 現地：先着60名，オンライン：先着500名（事前申込制先着順）
費用 無料
内容 テーマ『アレルギーはどこまで治るか？』

- Session 1 スッキリを目指してアレルギー性鼻炎
- Session 2 ここまでわかった小児の食物アレルギー
- Session 3 喘息は治るのか？
- Session 4 ここまでよくなるアトピー性皮膚炎 治療の進歩
- Session 5 [総合討論] アレルギーの総合診療に取り組むはびきの医療センター



詳細はこちら

*** 当センターホームページよりチラシをご確認のうえ、お申し込みください**

当情報誌は、「かわらばん」から「はびきのNEXT」に名称を変更いたしました引き続きご愛読いただきますよう、よろしく願いたします

